

cep

communication

・特集・
インターンシップ生が感じたデジタル化

Sep.2024 vol. **59**
株式会社アピックス 社外報



D I G I T A L I Z A T I O N



デジタル化は未来、今が未来を作る

Together, we create a sustainable future

デジタル技術の進歩によって、私たちは便利で効果的な方法で日常生活を送ることができるようになりました。

アピックスもこのデジタル技術を活用し、品質向上や業務の効率化を図ることで、これまでに実現できなかった価値をお客様へ提供していきます。

今号は一週間のインターンシップに参加したインターン生が社員と協力して作成いたしました。新たな視点を取り入れた内容を、ぜひご覧ください。 経営企画室 袁アレックス

昔の紙文書を未来に持っていく

今の時代、社会の需要や技術は変わってきています。

アピックスでは、プロフェッショナルとして高品質のサービスを提供することを一番大切に、デジタル化の新しい道を開拓しています。そのひとつが、過去の紙文書をデジタル化することです。そうすることで、保管スペースの削減や劣化を防ぎ効率よく活用ができます。お客様によって異なる原稿の形式や量、紙のサイズや形状に合わせて業務を行います。安心して任せていただくために、これから方法を説明していきます。

1



原稿の受け取り

まず、お客様と打ち合わせを行います。そして、お客様と細かく仕様を決定した上でお客様からの依頼を受けた原稿を受け取ります。一番多い時は、一度にトラック4台分の箱が届いたこともありました。

2



スキャン

次に、原稿をスキャンします。綴じている部分を外してスキャン出来る原稿は自動原稿送り装置を使います。外してはいけない原稿は手置きで1ページずつスキャンします。

3



チェック・納品

最後に、スキャンが終わったデータを確認します。画質やスキャン漏れなどの問題がなければ、仕様に合わせたフォーマットに整えてお客様に納品します。

デジタル トランスフォーメーション — アピックスのこれから —

日本のデジタル化はまだ遅れていると捉えています。企業努力が必要ですが、手間や資源消費の削減につながるペーパーレス化を更に推進していくべきだと考えています。コロナ禍以来普及したリモートワークが根付いてきたように、当社も社会に適応させていくことが重要です。お客様に価値を感じていただき、必要とされる会社を目指していきます。

代表取締役社長 河村 武敏
(取材・記事：インターン生)



新しい時代に向かって

治験業務においても、これまでの紙文書から電子文書へ運用が変わっていています。

アピックスでは、日々発生する紙文書と電子文書をハイブリットで活用できるよう業務サポートを行っています。製薬会社の文書管理について社員にインタビューを行いました。

紙文書での課題

紙文書は保管スペースを必要とし、運送にも時間がかかります。また、印鑑が必要で手軽な閲覧や共有が難しいです。最近、紙とデジタルを併用するお客様が増え、対応が煩雑に。個々の電子保管方法ではルールが統一されず、効率的な運用や品質管理が困難になり、スキャンや登録ミス、セキュリティリスクも高まります。



カスタマーリレーション部 仲野 文朗

電子文書のメリット

電子文書のメリットとしては、紙で置いていた書類が減り、スペースが広がることや、正確性が上がることが挙げられます。例えば、治験に関する文書を効率的に使用するための「eTMF*」保管を行っています。機密性・完全性・可用性を担保しながら、情報を集約することができます。

*eTMFとは：「Electronic Trial Master File」の頭文字で、治験の実施及びデータの品質に対する評価を補助する文書を加えた治験関連文書から成る文書群を電磁的記録で構成したもの



身近に広がる新しい社会

わたしたちはニューノーマルへどのように適応しているのか

アナログからデジタルへと急速に環境が変化しています。身近な「デジタル化」の例として、インターンシップ生やアピックスの社員たちの生の声をお届けします。

教育現場のデジタル化



近年、教育現場における学習方法が変化しています。以前は黒板やプリントなどアナログが中心でしたが、現代の子供たちの世代では授業や課題提出の際に専用アプリを活用し、デジタルに置き換えられてきています。

町の便利な連絡方法



一昔前は町の連絡手段は限られていましたが、最近ではオンラインフォームやSNSの利用が主流です。これらにより、回覧板を回す手間や留守番電話のデメリットなどがなく多くの人々の意見や情報の収集が可能になりました。

アピックスとICT



アピックスでは簡単に、かつ効率的に情報を共有するためにデジタルホワイトボードを使用しています。本社と支店の距離があっても、この技術によって、あたかも同じ部屋にいるように、図や意見などを瞬時に交換できます。

子育て中のアピックス社員にも聞いてみました



私の子供が通う保育園では出欠確認やお知らせを保育園の端末やアプリで確認でき、便利になりました。家では子供もタブレット操作で遊んでいますが、紙での工作や外遊びのほうが好きみたいです。

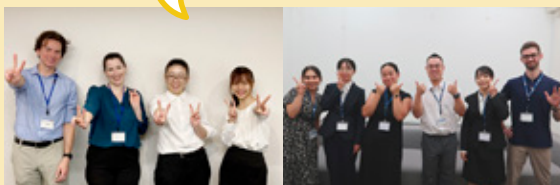
経営企画室 平岩 伸一

子供の通う小学校ではタブレットが貸与され、連絡帳や宿題をタブレットで行えるようになりました。ただ、SNSのトラブルに合わないようネットを利用するにあたって注意点を子供に教えています。

カスタマーリレーション部 井上 隆二



私たち、インターンシップ生が作りました!



リモートと対面を併用し、全員で協力しながらコンテンツを作る新たな経験ができました。(ジャスティン、ジェニファー、今津)

沢山の人たちに支えてもらって、意見を言える環境だったので、自信がつき、いい経験でした。(カルビン、メリッサ、星山)

意見をより良くしていくためにはチームワークが必要だと感じました。(イヴァン、キャサリン、柿木、戸泉)

株式会社アピックス

本社 〒541-0059 大阪市中央区博労町1-2-2 TEL:06-6271-7291(代表)
東京支店 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル3F
BPOリンク大阪 〒542-0082 大阪市中央区島之内1-8-12 徳銀相産ビル3F
URL <http://www.apix.co.jp> E-mail info@apix.co.jp